

Murata report 2017

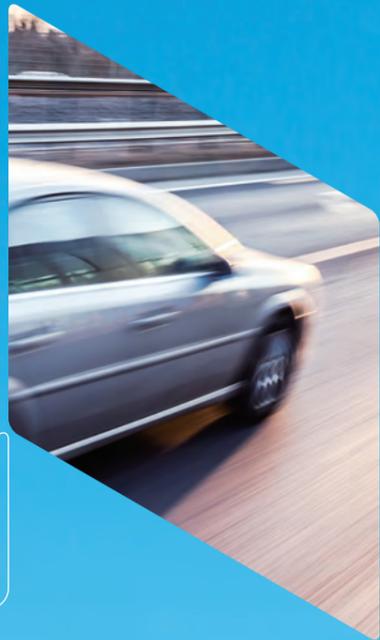
Corporate Report
CSR Report

Innovator in Electronics

ムラタが作っている電子部品のことを、多くの人は知りません。PC、スマートフォン、家電製品、カーエレクトロニクス…。私たちの日常を支えるさまざまな電子機器の中で、ムラタの電子部品は活躍しています。さらに今、ムラタの電子部品は、オートモーティブ、ヘルスケア、エネルギーなど、多くの新しい分野で活躍の場を広げています。

Innovator in Electronics

電子部品は、変わり続けています。ムラタもまた、変わり続けたいと思います。時代の動きを受け止め、まっすぐにお客様を見つめ、現場でのモノづくりに誇りを持ち、たえず新しい課題にチャレンジする、エネルギーに満ちた改革者 (Innovator) であり続けたいと思います。変わらない信念を持って、大胆に変わっていく。ムラタはどんな時代にもイノベーターであり続けます。



Contents

Corporate report	02	Innovator in Electronics
	03	Contents
	04	Message from the President
	06	Murata technologies
	08	Products by application
	12	Target markets
CSR report	14	Financial highlights
	16	Global network
	18	CSRコミットメント
	20	CSR全般
	22	事業とCSR
	24	安全衛生、環境保全推進
	26	従業員への責任と行動
	28	仕入先様への責任と行動
	29	社会・地域への責任と行動
	30	CSR活動における目標と実績
32	第三者からのご意見	
Profile	33	国内外主要拠点一覧
	34	役員一覧
		株式の状況 大株主の状況

※本誌では村田製作所グループ全体をムラタと表記しています。

Murata Philosophy

基盤を確立し、飛躍に向けて
グループ全体の力を結集する。

「中期構想2018」1年目は、基盤強化に注力。

ムラタでは、「グローバルNo.1の部品メーカーとして持続的に成長し続ける」というビジョンを描き、これを実現するための3か年の指針を「中期構想2018」としてまとめています。ムラタの事業規模はこの5年間で倍増するなど、経営環境は大きく変化しておりますが、さらなる飛躍のために「中期構想」の1年目にあたる2016年度は、基盤強化に注力してまいりました。

ムラタの中核市場である通信市場では、携帯電話の生産台数の伸びは鈍化したものの、高機能化の進展により、スマートフォンへの部品搭載数は伸び続けています。ムラタの部品からモジュールにいたる多様な製品ラインアップは、モジュール技術や高周波技術などさまざまな種類の技術からなり、日々お客様に新しい価値を提供しています。ムラタは、これからもお客様からのさまざまなご要望に、これらの幅広い製品ラインアップと、サプライチェーンマネジメントによる安定した供給体制でお応えしてまいります。

あらゆる技術・人材の力を合わせて、共に未来へ。

主要ビジネスである通信市場の事業を強化する一方で、オートモーティブ、エネルギー、ヘルスケアなどの注力市場においても事業拡大に向けて取り組んでおります。いくつかの買収および提携を進めたことで、これまで蓄積された技術やノウハウと新たに獲得した技術やアイデアとを組み合わせ、持続的な成長を実現してまいります。

また、モノづくりをはじめ、技術開発、人材開発など事業基盤の強化にも努めてまいります。グローバルに事業を展開するムラタは、多様な人材を積極的に活用するダイバーシティ(多様性)とインクルージョン(受容)を尊重しており、このテーマをグループ全体で推進するとともに、企業運営の礎であるムラタの経営理念を引き続き大切にしております。

エレクトロニクス業界のイノベーターとして、ムラタはお客様が描かれるビジョンの実現に向けて全力で取り組んでまいります。ムラタのこれまでの成長は、お客様をはじめとするさまざまなステークホルダーの皆様のご支援の賜物であることをあらためて感謝申し上げますとともに、今後も、皆様とともにエレクトロニクスの未来を築いていける企業であり続けます。

代表取締役会長兼社長 村田 恒夫



社是

技術を練磨し
科学的管理を実践し
独自の製品を供給して
文化の発展に貢献し
信用の蓄積につとめ
会社の発展と
協力者の共栄をはかり
これをよろこび
感謝する人びとと
ともに運営する

Murata technologies

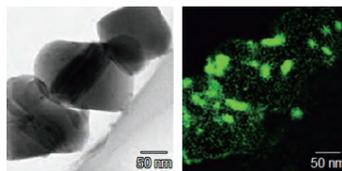
エレクトロニクスの未来を創造する

材料から製品までの一貫生産体制を構築しているムラタでは、材料技術、前工程技術、商品設計技術、後工程技術、分析・評価技術などの基盤技術を独自に開発、蓄積しています。また、外部とも積極的に協業し、将来を見越した技術や製品の開発により、新たな市場やイノベーションの創出を目指しています。

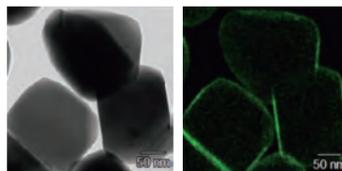
材料技術

「良い電子機器は良い電子部品から、良い電子部品は良い材料から…」ムラタではこの考えをベースに求められる機能を常に材料にまで立ち返って、源流での管理、源流からの開発姿勢を貫くことで、優れた特性を持った機能性セラミック材料の創出を実現してきました。セラミック材料で培われた技術は、新しい機能を生み出す材料の開発に展開されています。

旧プロセス



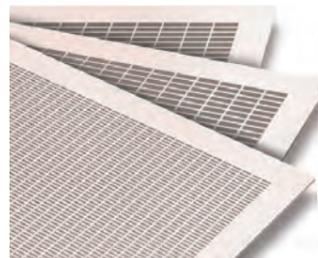
新プロセス



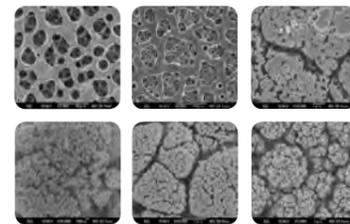
微量添加物の分散コントロール

前工程技術

設計された機能を最高の作り方で具体的に発現させるのが前工程技術です。電子部品の小型化、薄型化、高機能化において、前工程技術は重要な役割を果たしています。



高精度印刷



めっき金属の比表面積制御

Where innovation begins

Perfected techniques

Shaping the future

Making innovation happen

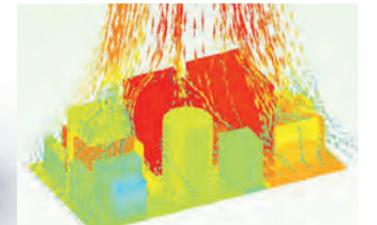
Attending to detail

商品設計技術

単機能部品からモジュールへ、さらにトータルソリューション提案へと、ムラタからの提案は日々進化しています。お客様のご要望に迅速に対応し、未来を見据えた技術、商品の開発に取り組んでいます。



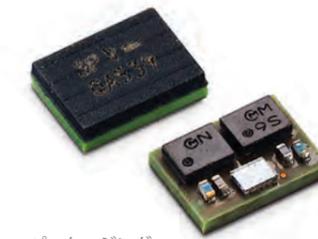
インダクタ構造設計



パワーモジュールの熱解析シミュレーション

後工程技術

自社設計の生産設備とモノづくりの専門知識により、製品を効率的、安定的に量産するための技術やノウハウを多く保有しています。



パッケージング



EMC計測

分析・評価技術

高度な故障解析システムとともに、材料の物性、電気特性、組成、構造の評価に科学的分析手法を効果的に用いることで、お客様にムラタの高い信頼性を提供しています。

積層構造

内部電極

誘電体セラミックス

1μm

誘電体セラミックスのTEM像※

2nm

※透過型電子顕微鏡

陽イオン配置構造

Ba

Ti

外部電極

内部電極

チップ積層セラミックコンデンサの微細構造

Products by application



電話の枠をはるかに超えて。まるで魔法の杖。

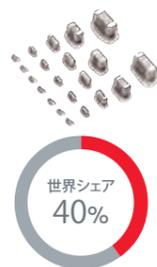
— そこには、もっとつながりたいムラタがあります —

いつも身近にあるスマートフォン。通話はもちろんメールやSNS、ゲームにカメラと機能は万能。通信速度はさらに高速に、容量はさらに大きく。通信サービスの広がりにもなって、高機能化、多機能化がますます進んでいます。

高周波部品の小型化やモジュール化、機能や操作性を向上させるセンサ、低損失なコンデンサやパワーインダクタなどで、コミュニケーションの進化と普及に貢献します。

チップ積層セラミックコンデンサ

電気を蓄えたり電気の流れを整える働きをし、電子回路には欠かせない部品です。スマートフォンをはじめとするモバイル機器の高機能化にともない、部品の搭載数が増加するとともに小型化・薄型化が進んでいます。



インダクタ(コイル)

電気を流すと磁界と作用し合って電流に影響を与える部品でコイルとも呼ばれています。無線回路や電源回路などで使用されています。



高周波同軸コネクタ

高周波信号を基板から基板へと伝達する同軸コネクタ。スマートフォンやタブレット端末、またウェアラブル端末など、より小型・低背で高機能な通信機器の発展に貢献しています。



高周波モジュール

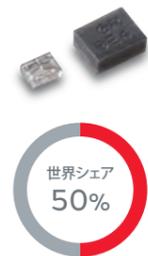
スマートフォンの複数周波数対応をサポート。周波数切り替え、フィルタリングの従来機能に、信号増幅(PA)機能を一体化。さらなる機能付加で、スマートフォンの薄型化、通信速度の高速化に貢献します。



[内部構造イメージ]

表面波フィルタ

無線信号の中から必要な信号だけを取り出すフィルタは高周波回路のキーデバイス。ムラタは独自の小型化技術で、回路設計の自由度向上に貢献しています。



コネクティビティモジュール

無線通信によってさまざまな機器からインターネットにアクセスするための複合部品です。スマートフォン、車載機器の多機能化やIoTの流れをリードしています。



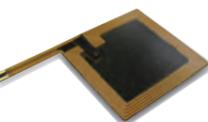
MetroCirc™

ムラタ独自の多層積層技術と有機材料を組み合わせた基板です。高周波およびデジタル信号の伝送線、アンテナなどで使用され、優れた高周波特性に加え自由な製品形状が実現できます。



NFC (Near Field Communication) アンテナ

“電子決済サービス”を提供する機器の中に使われています。電子決済サービスは、街中のお店での支払いをキャッシュレスで行え日常生活を便利にしてくれます。決済時の個人端末(携帯電話など)と決済端末間の情報やり取りはNFCアンテナを通して行います。



Communications [通信]

好きな場所で、好きなことを。

— 「簡単」を実現する、簡単じゃない技術をムラタから —

手軽に持ち運べて簡単につながる薄型ノートPCやタブレット端末は、学生から社会人まで、生活に欠かせないもののひとつ。今ではイラストレーション、ゲーミング、動画編集もこれ一台で。

ムラタは、電子部品の小型・薄型化技術、高密度実装技術、センシング技術で、PCの高性能化、多機能化に貢献。低消費電力の接続性を提供する無線通信モジュールや快適な操作性を実現するセンサなどで、新時代のコンピューティングをサポートしています。

低ESLチップ積層セラミックコンデンサ

等価直列インダクタンス(ESL)が低く、高周波特性が優れているため、高速動作電子機器の電源デカップリングに最適なコンデンサです。



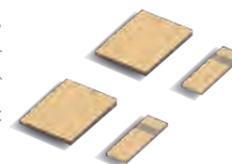
ショックセンサ

圧電セラミックスを応用して、加速度や振動を電気信号に変換する電子部品です。主にHDDで、外部からの衝撃による書き込みを防止するためのセンサとして使用されています。



アクチュエータ

圧電アクチュエータは、圧電セラミックスの持つ電圧を印加すると変形する性質を利用して、ハードディスクドライブ(HDD)の磁気ヘッドの微小な位置制御に使われています。



Computers [コンピュータ]



※各ページの世界シェアは業界全体での世界シェアであり、アプリケーション別の世界シェアではありません。また世界シェアは当社推定値です。市場や用途により異なります。

Automotive electronics

[カーエレクトロニクス]

人と地球にやさしいクルマは、 エレクトロニクスの進化とともに。

— だから、ムラタには、まだまだやるべきことがいっぱい —

環境を守りながら、すべての人が安心して自由に移動できる社会へ。目指すは完全自動運転。実用化に向けて、ムラタの技術革新は加速します。

ムラタの電子部品は、安全装備、運転支援、パワートレイン、情報通信など、あらゆる分野で、過酷な使用条件に耐える高い信頼性を実現すべく、クルマとともに進化しています。

ジャイロコンボセンサ

加速度変化や重力変化を静電容量変化としてとらえ、加速度値や傾斜角度を検出することができます。車体の横滑り防止装置 (ESC) やアンチロック・ブレーキシステム (ABS) など、クルマの基本性能に関わる部分に使用されています。



超音波センサ

圧電セラミックスを振動させることで発生する超音波の反射時間で距離を測定するセンサです。駐車支援システムのバックソナーに使用されています。



DC-DCコンバータ

ムラタ独自の制御回路とシートトランスを用いた薄型・軽量のDC-DCコンバータです。絶縁が必要な各ブロック (低圧バッテリー入力回路部・高圧バッテリー入力回路部・AC商用電圧入力回路部) 間の回路部への電圧供給が可能になります。



チップ積層セラミックコンデンサ

セラミックスの耐熱特性を活かした高信頼性コンデンサは過酷な使用環境下でも性能を発揮します。ECU、駆動制御、セーフティー機器などの高信頼性を求められる用途はもちろん、オーディオやナビゲーションなどのインフォテインメント用にも広く使用されています。



パワーインダクタ

自動車の電子制御システム化が進んでいます。その中で、回路に必要とされるさまざまな電圧を効率よく作り出すために使われます。また、電子機器から発生するノイズを抑制する目的でも使われます。



タイミングデバイス

ICと組み合わせてクロック信号を作り出す部品です。自動車の電装化が進むと、ECU同士の通信が必要となり、そこには高精度、高品質なクロック信号を作り出すタイミングデバイスが求められます。



暮らしをアップデートしてくれる 家の中には、家族とムラタがいます。

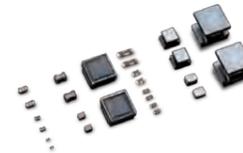
— 賢くて、経済的なのが、おしゃれです —

好きな番組を覚えていてくれるテレビ。人のいるところだけ涼しくしてくれたり、空気にマイナスイオンを与えてくれたりするエアコン。

センサやイオナイザモジュール、変換効率の高い電源モジュールが、スマートでエコな、次世代の暮らしを支えています。

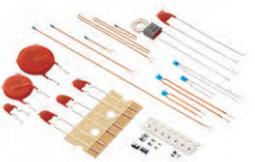
チップEMI除去フィルタ (エミフィル®)

AV機器/家電のデジタル化が進んでおり、機器内部を流れている高速なクロック信号が時に電磁ノイズとして機器に悪影響を与えることがあります。ノイズによる誤動作などを防止し、同時にAV機器の高画質・高音質に貢献しています。



サーミスタ

温度に応じて抵抗値が変化する素子で、温度センサや回路保護、ヒーターなどに応用されています。ICや電源回路、バッテリーなどを過大な電流や発熱から守り、温度による制御や動作を正常に保つための部品として活躍しています。



イオナイザ/オゾナイザ (イオニシモ®)

空気分子をイオン化 (プラスやマイナス電荷を付与) するデバイスです。空気をイオン化し機能性を持たせることで、消臭、除菌、防カビ、抗ウイルス、除電、帯電などの効果が得られます。



導電性高分子アルミ電解コンデンサ

低背/低ESRを特徴とした大容量コンデンサです。シビアな電圧制御が要求される回路の電圧安定化を担い、AV機器の高機能化に貢献します。



コネクティビティモジュール

ムラタの通信モジュール製品は独自の材料技術や加工技術をベースとした小型、高信頼性を特徴としてお客様のセット製品の高機能化、小型化要求にお応えします。



Audio and visual / Home appliances

[AV/家電]

※各ページの世界シェアは業界全体での世界シェアであり、アプリケーション別の世界シェアではありません。また世界シェアは当社推定値です。市場や用途により異なります。

Target markets

未来を創造する

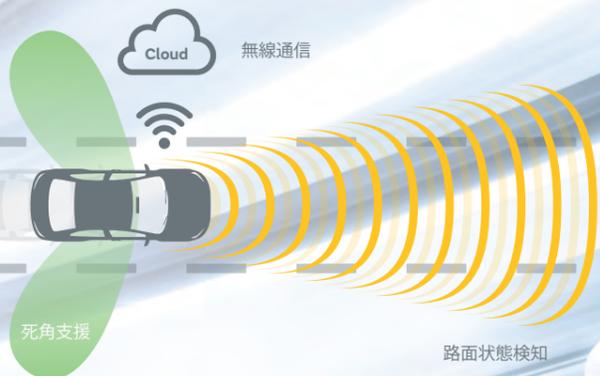
異なる産業をつなぐデジタル化やIoT化によって、エレクトロニクスの領域が広がり、スマート社会への新たなニーズが生まれています。ムラタはこれまで培ったノウハウでセンシング、通信、小型化技術における新しい価値を創出します。

通信市場に加えてオートモーティブ、エネルギー、ヘルスケア市場において、独自の製品とソリューションを提供し、安全、安心、快適な社会づくりに貢献します。

ムラタは安全で、健全で、より効率的な社会の発展に貢献します

安全走行 🚗

ドライバーと、道路と、クルマ同士で。近い将来、クルマは自動化され、あらゆるものがネットワークでつながります。ムラタの信頼性の高い部品やソリューションが、お客様へ安心をお届けします。



運転支援システムの発展は交通の安全性を高めます。ソフトウェア、センサなどさまざまな技術が含まれているこのシステムは、運転環境を検知し、ほかのクルマやサービスとネットワークでつながります。

スマートなヘルスケア 🏠

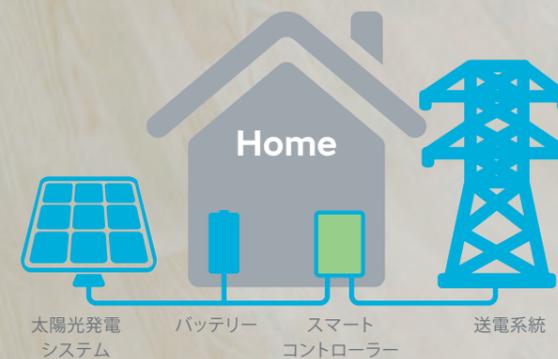
先進国における高齢化対応、新興国における医療サービスの広がりにより、今後ますます医療の高度化・効率化が求められます。ムラタは独自の技術を結集させ、新しい価値をお客様に提供することにより医療技術の進展に貢献します。患者様の負担を軽減する医療機器から医療IT分野に、小型・高信頼性製品でお客様のニーズに応えていきます。



リアルタイムで生体情報など患者情報をセンシング・通信することにより、効果的な予防・早期の治療を行うことが可能になります。さらには、病院だけでなく在宅・遠隔医療へも広がっていくことが見込まれます。

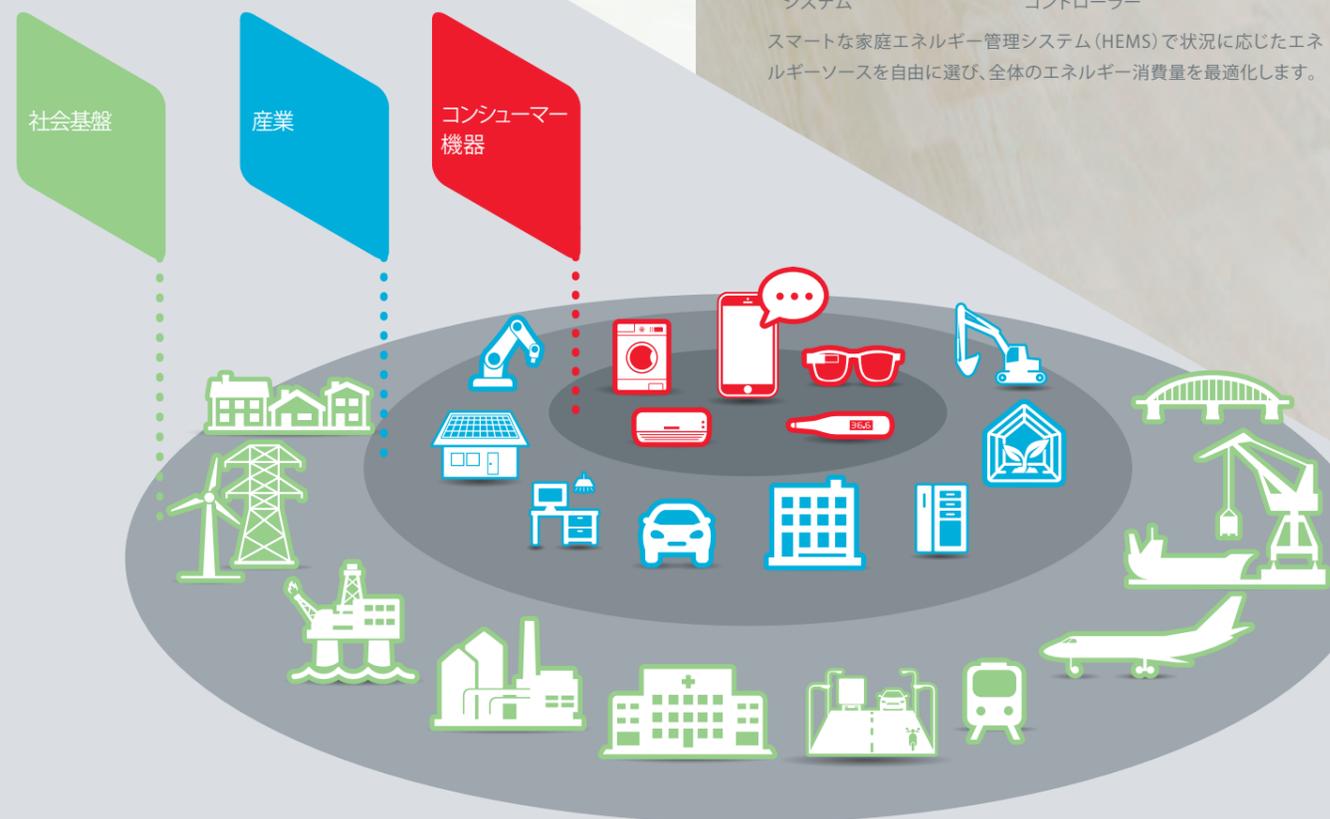
省エネルギー 🏠

世界規模で再生可能エネルギーの活用が広がる中、「スマート」なセンシング・通信技術がエネルギーシステムの効率化に求められます。ムラタでは、部品の小型化やエネルギー変換効率の高いモジュールと小型高出力定置用蓄電池の開発、消費電力を見える化するマネジメントシステムなど、通信・センシング技術で省エネルギー化に貢献します。



スマートな家庭エネルギー管理システム (HEMS) で状況に応じたエネルギーソースを自由に選び、全体のエネルギー消費量を最適化します。

エレクトロニクスの広がり —市場機会の増大—



Financial highlights

「つながる」社会へ、新製品を続々投入。

電子部品の需要はさらなる小型・薄型、高性能、高信頼性へ。

現在、世界中の携帯電話の90%近くを占めるスマートフォン。LTE端末におけるマルチバンド化やキャリアアグリゲーションの進展による通信の高速化など、今後も一層の高機能化、多機能化が見込まれています。カーエレクトロニクス分野ではさらなる電装化の進展とともに、横滑り防止装置をはじめとする安全機能やインフォテインメントなど利便性の向上が見込まれます。

電子部品に対する需要は、さらに小型・薄型、高性能、高信頼性へと進んでいきます。

2016年度は急激な円高の影響や通信モジュールの売上減により、好調であった前年に対して減収減益の結果となりました。2017年度は新製品の投入を継続的に行うことで、主力製品であるチップ積層セラミックコンデンサや圧電製品、その他コンポーネント製品に加え、部品内蔵技術と多層プロセス技術で集積化した通信モジュール製品の拡大に努めます。



売上高 **1兆1,355** 億円

営業利益 **2,012** 億円

当期純利益 **1,561** 億円

総資産 **1兆6,350** 億円

製品別売上

モジュールや小型高性能なコンポーネント部品。ムラタの強みが発揮されています。

コンデンサ

スマートフォンなどの通信機器向けでは超小型品や小型大容量のコンデンサが、カーエレクトロニクス分野では自動車の電装化の進展で高信頼性のコンデンサが、さらに需要を拡大しており、ムラタの強みが発揮されています。

圧電製品

スマートフォンのマルチバンド化にともない表面波フィルタの需要が伸びているほか、自動車の運転支援用途で超音波センサに対する需要が増えています。

その他コンポーネント

スマートフォン向けの高周波コイルやメタルコイル、カーエレクトロニクス向けのEMI除去フィルタや横滑り防止装置に使われるMEMSセンサなどが、今後も拡大する見込みです。

通信モジュール

スマートフォンの通信速度の高速化、多機能化、マルチバンド化で端末1台あたりの部品点数が増加しています。RF部の占有面積の削減や通信回路スペースの効率的な使用などを目的にモジュール化(部品の集積化)の動きが進んでおり、今後も需要拡大が期待できます。

電源他モジュール

エネルギー、データセンターやサーバー用の電源として、さらに需要拡大が期待できます。

用途別売上

便利・快適・安心に貢献する製品群。新商品投入でさらに市場を拡大していきます。

通信

引き続きLTEスマートフォンの普及やキャリアアグリゲーション*の進展による通信の高速化が見込まれています。超小型・小型大容量の高付加価値なコンデンサ、表面波フィルタ、高周波コイルといったコンポーネント部品、高周波モジュール、コネクティビティモジュールといったモジュール部品、さらにMetroCirc™のような機能性部品など、幅広い製品で需要が増加していきます。2016年度は円高や通信モジュールの不振により売上高は減少しておりますが、2017年度はユニークな新商品の立ち上げ、拡売に努め需要獲得・売上増加を目指します。

コンピュータおよび関連機器

スマートフォンの大画面化によりタブレット端末の伸びが鈍化し、円高の影響と相俟って全体では低調に推移しましたが、ノートPC向けやサーバー向けの需要は堅調に推移しています。

カーエレクトロニクス

自動車の電装化が進み、高信頼性の車載用コンデンサや横滑り防止装置用のMEMSセンサ、運転支援向けの超音波センサなどが増えているほか、今後はインフォテインメント用途向けのコネクティビティモジュールの増加が見込まれ、自動車向けの電子部品の需要は販売台数の伸び率以上の成長を示しています。

AV、家電・その他

デジタルカメラ向けのコネクティビティモジュールは伸長したものの、円高やゲーム機向けのコンデンサ、EMI除去フィルタが減少した影響により全体として低調に推移しました。

*通信速度を高めるために違う周波数を一度に使うサービス

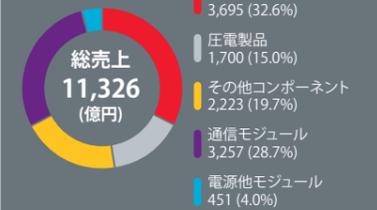
新規アプリケーション

オートモーティブ、エネルギー、ヘルスケア、そしてIoT社会へ。新しい市場に新しい価値を、さらに積極的に提案していきます。

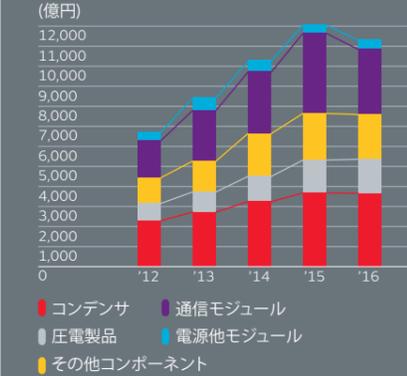
ムラタが今、注力しようとしているのは、①電装化の進展や先進運転支援システムの普及、V2Xの拡大などで電子部品の需要が急拡大するオートモーティブ市場、②効率的なエネルギー活用と省エネルギー社会の実現を目指して進むエネルギー市場、③健康を意識する世代の増加、医療技術のIT化や電子化で成長が見込まれるヘルスケア市場です。さらに長期的な視点では、あらゆるモノやコトがインターネットにつながるIoT社会の広がりが期待されています。これらの市場でムラタは、これまで培ってきた

エレクトロニクスの技術(小型化・薄型化の実現、センサ、無線通信のコア技術)やノウハウを活かして新しい価値を提供することで変化を起こし、新しい社会、より良い社会の実現に向けて、これまでも増して貢献し続けていきます。

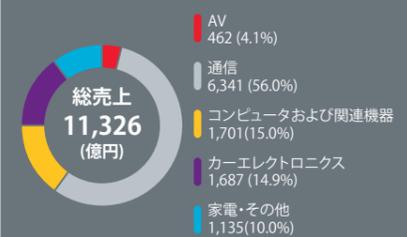
製品別売上高



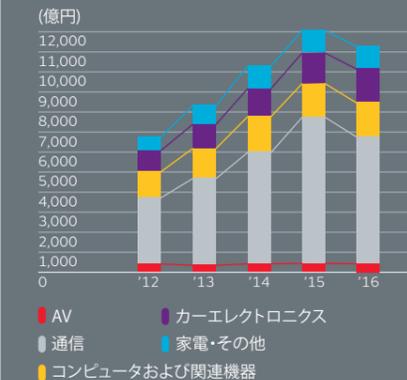
製品別売上高



用途別売上高



用途別売上高



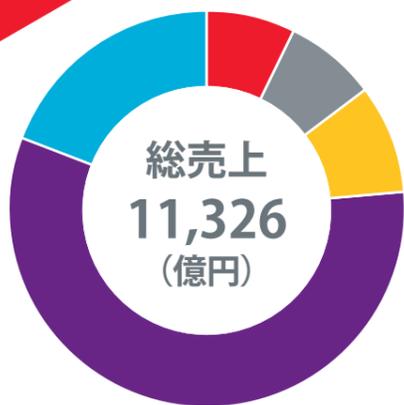
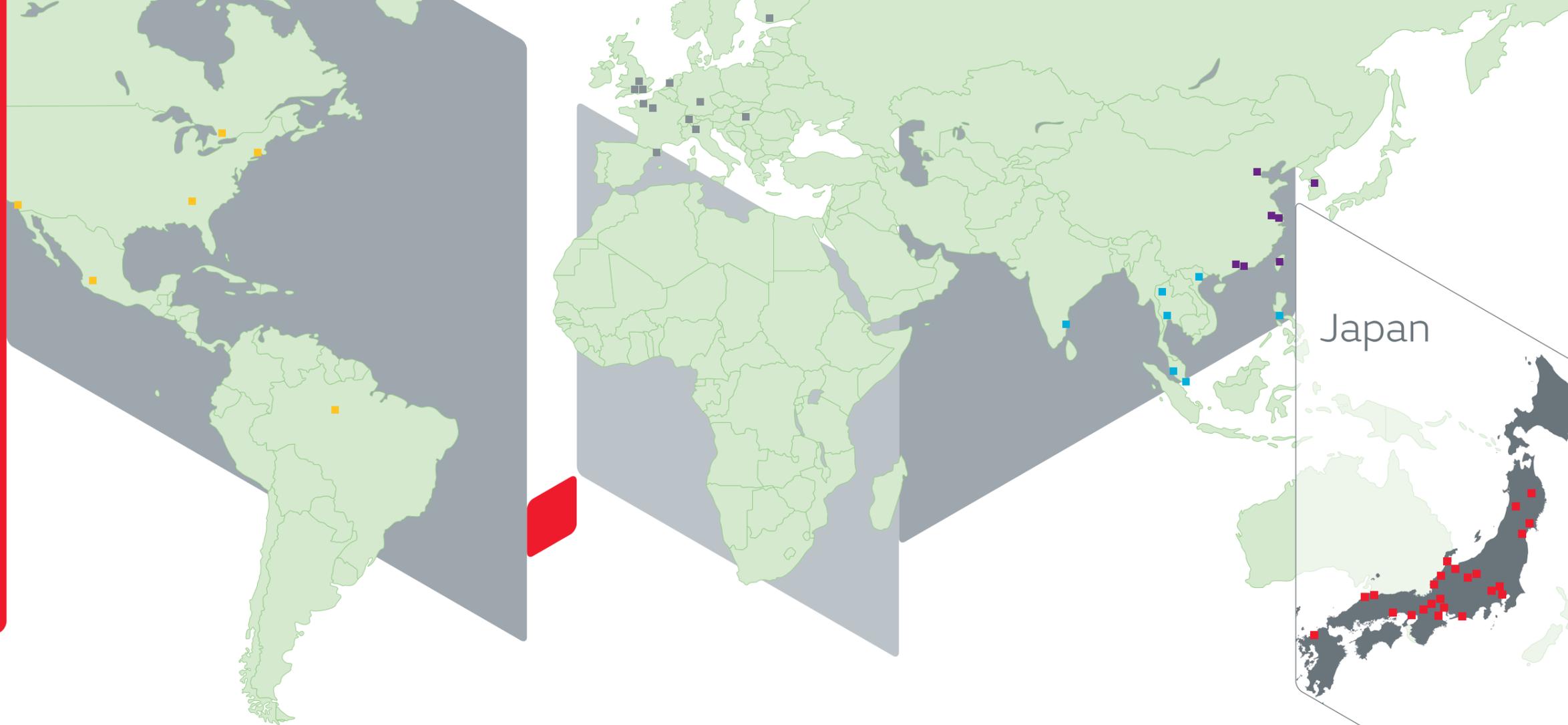
Global network

さまざまな地域で、97社。
世界のそれぞれの場所で、
ムラタらしく、新しく。

ムラタ製品の90%以上は海外で販売されています。日本、アジア、南北アメリカ、ヨーロッパ。

それぞれの拠点が、同じ方針のもとにお客様志向を貫くだけでなく、それぞれの地域の企業市民として愛され、信頼される存在であるように。

そしてまた、それぞれの拠点が同じムラタの仲間としてひとつの目的に向かって進んでいけるように。世界のムラタが、足並みをそろえています。



地域別売上高

- 日本 842 (7.4%)
- ヨーロッパ 836 (7.4%)
- 南北アメリカ 1,026 (9.0%)
- 中華圏 6,473 (57.2%)
- アジア・その他 2,148 (19.0%)

※地域別売上高、従業員数、関係会社数は2017年3月31日のものです。
※地域別売上高は、電子部品およびその関連製品の売上高です。

The Americas

売上高 1,026億円
従業員数 1,001人
関係会社 11社

Global collaboration achieves global success!

ムラタのビジネスエンジニアリング (BE) 部門では、業務プロセスの改善と革新的なITソリューションをグループ全体に提供することで、事業の成長に貢献していきたいと考えています。また、ムラタアメリカでは、高パフォーマンスを実現するための信頼されるグローバルチームの確立を目指しています。我々BE部門においても、関係部門と協同しながら「デザイン・イン」を通じてお客様へさらなる付加価値をお届けし、ムラタの成長と発展に貢献したいと考えています。

Murata Americas Applications Support Manager
Karen Smith



Europe

売上高 836億円
従業員数 1,510人
関係会社 13社

Work together in a team, utilizing the wisdom of all.

Murata Elektronik GmbHは、オートモーティブ、IoT、ヘルスケアおよびIndustrie4.0といった成長市場に重点を置きながら、DACH地域 (ドイツ、オーストリアおよびスイス) さらには東ヨーロッパのお客様とのビジネスを行っています。研究開発から生産まで多岐にわたる分野において、お客様からのご要望にお応えするため、ムラタグループ丸となってお客様サポートや課題解決に取り組んでいます。私たちは、モジュールおよびソリューションの革新的なサプライヤーとして、今後もお客様とともに事業を展開してまいります。

Murata Europe Business Development Manager
Joerg Wuestner



Asia and Others

売上高 2,148億円
従業員数 17,084人
関係会社 17社

Investing on strong foundation to provide greater value to the business

Philippine Manufacturing Co. of Murata, Inc.では、事業拡大のペースを加速させながら、世界中の市場からの需要に対応することが期待されています。従業員一人ひとりがCSと変革の精神を持つことを意識しながら、主要製造拠点のひとつとしてその能力を最大限に発揮しつつ、お客様のご要望にお応えしてまいります。

Philippine Manufacturing Co. of Murata, Inc. Finance and Accounting Section Assistant Manager
Allan Javier



Greater China

売上高 6,473億円
従業員数 15,424人
関係会社 25社

Sharpen more, the more light!

私は、無錫村田電子有限公司で生産する製品の出荷を担当しています。中華圏の事業拡大にともない、出荷量も過去最高を更新する中で、さらなる飛躍のために品質やサービスの向上を追求しなければなりません。お客様からのQCDS (品質、価格、納期、サービス) に対するご要望にお応えするため、私たちは迅速かつ確実に製品を出荷し、お客様からのご期待以上のサービスを提供していきたいと思っています。

無錫村田電子有限公司 MLCC製造統括部 第2製造部 シニアマネージャー
从軼



Japan

売上高 842億円
従業員数 24,966人
関係会社 31社

魅力的な製品の創出

車載、エネルギー、ヘルスケア分野の成長は著しく、求められる部品、モジュールも日々進化、変化しています。当社では各分野のビジネス拠点として世界各地のお客様、市場のニーズをキャッチし、製品の開発、提供を行っています。変化の激しい市場環境の中で持続的に成長していくためには、各関係部門との連携やお客様や仕入先様とのコラボレーションを強化し、常に一歩先を行く技術を開発し続けることが重要です。ムラタ全体の英知を結集し魅力的な製品を提供することで会社と社会の発展に貢献してまいります。

株式会社村田製作所 モジュール事業本部 通信モジュール事業部 シニアマネージャー
中村 秀昭



CSR report 2017

ムラタは、創業期から会社の理念として社是の一節に「独自の製品を供給して文化の発展に貢献」と掲げてきました。私たちの製品を通じて、生活をより豊かに、より質の高いものにすることに貢献していきたいという強い思いです。

たとえば、すでに社会インフラともいえるスマートフォンなどの通信機器の中で、ムラタの商品群は小型化、高性能化に寄与しています。また、オートモーティブ分野ではより安全により環境にやさしく、エネルギー分野では限られた資源や環境問題の解決に貢献し、ヘルスケア分野では人々の健康と生活の質的向上を支えています。これらの進化の鍵を握るのはエレクトロニクスであり、ムラタの技術が大きく寄与できる分野です。さらに、これから普及が期待されるウェアラブル端末やIoT/IoEは将来社会を大きく変革する可能性を秘めており、それらをターゲットにした技術開発にも積極的に取り組んでいます。

このような事業を通じた社会への貢献に加えて、持続可能な社会を実現するためには、環境問題、人権問題など、解決すべき多くの世界的な課題に向き合わなければなりません。たとえば、エレクトロニクス業界では紛争地域の

鉱物資源問題の解決に向けて早くから関わってきました。ムラタは、これらの課題にサプライチェーンとも協働し、真摯に取り組んでいます。

また、ムラタはグローバルに事業を展開する企業として、性別や国籍など属性にとらわれない多様な人材が生き生きと働く環境づくりを、ダイバーシティ&インクルージョン活動として推進しています。多様なバックグラウンドや価値観を尊重するとともに、国内外の拠点で人材交流を行い、経営理念や目指す方向性をグローバルに共有することで、社会に対して最良の価値を提供することを目指すものです。

2015年には企業統治指針（コーポレートガバナンス・コード）が導入され、企業経営においてより高い透明性が求められています。ムラタは、2016年6月の株主総会をもって、「監査等委員会設置会社」に移行しました。ムラタはこれからも、社是の精神に基づき、あらゆるビジネス倫理の遵守を含めた信用の蓄積に努め、ステークホルダーの方々と協働しながら社会的責任を果たしてまいります。

ムラタはCSR経営を推進するにあたって経営理念を基軸とする「CSR憲章」のもと、CSR統括委員会を組織しています。ムラタはこれからも「地域や社会に開かれた存在であり、信頼され尊敬される企業であり続けること」「お客様にムラタと一緒にビジネスをすることについて安心感を持ってもらうこと」を目指して、CSR統括委員会の活動を通じ、社会の持続的発展に向けたCSR経営を継続的かつ計画的に推進してまいります。

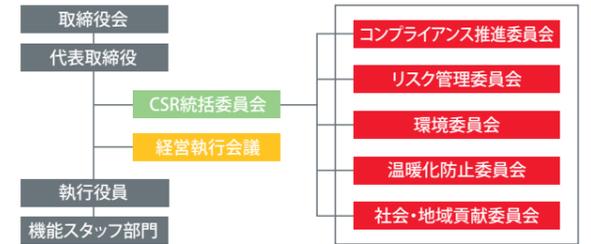
代表取締役会長兼社長 CSR統括委員会 委員長 **村田恒夫**

CSR憲章（概要）

ムラタでは、ムラタの経営理念をふまえて、法令の遵守はもとより、高い企業倫理観にもとづき、透明性の高いガバナンス、人権尊重、安全衛生、社会貢献、環境保全などに取り組むことにより、社会から信頼される企業であり続けることを目的として、当社に働くすべてのものが遵守すべき規範として「CSR憲章」を定めます。

企業統治	私たちは地域や社会に開かれた存在であり、信頼され尊敬される企業であり続けるために、説明責任を果たし、経営の効率化と透明性を高めていきます。
人権と労働	私たちは一人ひとりの人権を尊重し、尊厳を持って対応します。
安全衛生	私たちは安全で快適な職場環境を確保し、従業員の健康管理を行うことで、製品・サービスの質と従業員のモラル向上を図ります。
環境保全	私たちは企業活動の過程で生じる社会、環境、天然資源への悪影響を抑え、健康で安心して暮らせる社会の実現を目指します。
公正取引・倫理	私たちは社会的責任を果たし、社会から信頼される存在であるために倫理の最高の水準を目指します。
管理の仕組み	私たちはこのCSR憲章を遵守するための管理の仕組みを構築し、継続的な改善を図ります。

CSR関連委員会組織図



CSR憲章と、CSRに関連する方針類

- CSR憲章
- 企業倫理規範・行動指針
- 人権・労働に関する基本方針
- 労働安全衛生方針
- 環境方針
- 購買方針
- 品質基本方針
- ディスクロージャーポリシー
- 社会・地域貢献活動基本方針
- カルテル及び贈収賄防止に関するベーシックポリシー

報告対象範囲と情報開示体系

本レポートでは、ムラタのCSRとその取り組みを把握していただきやすくするため、要点を絞って報告・編集しています。詳細な情報や事例、各事業所別の環境データなどは、株式会社村田製作所のウェブサイトに掲載しています。なお、財務情報についての詳細は「投資家情報」をご覧ください。

報告対象期間

2016年4月1日～2017年3月31日
 ※一部、2016年3月以前、2017年4月以降の取り組みについても報告しています。

報告対象組織

村田製作所グループ（株式会社村田製作所および国内外の関係会社97社）



社是の精神を
通じて文化の
発展に貢献。

【CSRに関するメッセージ】

事業活動を通じてムラタの理念を具現化し、 社会に対する責任を果たす。

社会に対して、ムラタがもっとも重視すべき責任とは何か。それは「人」に対する責任だと考えます。エレクトロニクス産業は多くの雇用を支える日本の基幹産業です。電子部品業界におけるリーディングカンパニーのひとつとして、ムラタはモノづくりに関わる人々に安全で快適な職場環境を提供するとともに、人材を育成し続けていく必要があります。また、グローバルに事業を展開する企業として、世界各国のステークホルダーから社会的な課題解決に向けての貢献を強く求められています。ムラタはこうした使命や要請を成長の機会ととらえ、事業活動の発展と同時に、環境保護、人権擁護、法令遵守など、社会的責任を果たすため、さまざまな取り組みを進めています。

「独自の製品を供給して文化の発展に貢献」。これは社是の根幹をなす一節ですが、「独自の製品」という観点で、ムラタは通信、オートモティブ、ヘルスケア、エネルギーの4分野で“文化の発展”に貢献していきます。

— 通信

ムラタの製品は、スマートフォン、タブレット端末の小型化、低消費電力化に貢献しています。今後はIoT、さらにその先にあるIoEのインフラ構築を推進していきます。

— オートモティブ

完全自動化運転を見据えた技術の開発を通じて、より安心・安全なクルマ社会の実現に貢献しています。今後はCO₂を排出しない電気自動車の開発にも貢献していきます。

— ヘルスケア

培ってきたセンシング技術を医療機器に応用し、人々の健康に寄与していきます。今後はネットワークへとつなぐことで、在宅医療の可能性を追求していきます。

— エネルギー

高効率のシステムを組み込んだゼロ・エミッション住宅はすでに実用化しています。今後は導入コストの低減に努め、工場のショールーム化などを通じて普及に向けて取り組んでいきます。

ムラタが目指す未来、それは安心して便利で豊かな社会です。これを実現するために、ムラタには社是の精神があり、国内のみならず世界で活躍するムラタメンバーへの共有も行っています。経営理念として掲げている社是を実践することが、社会的課題の解決につながると確信し、また、多様な人材を活かすことで、社会全体を良くしていくという意気込みを持ちながら事業活動にまい進していきます。

【岡山村田製作所におけるCSRの取り組み】

社員一人ひとりが高い意識を持ち 現場でCSR活動を実践。

岡山村田製作所（以下岡山村田）では、管理部や製造部をはじめ、そこで働く従業員が一丸となって現場に即した主体的なCSR活動を実践しています。1992年4月に設立した岡山村田は、今年で創業25周年とムラタグループの中でも比較的新しい生産拠点です。人や環境に対する責任を果たし、地域社会に貢献するCSR活動は、岡山村田の明るい未来を創造していくために重要な取り組みととらえ、さまざまな施策を展開しています。

重点取り組みのひとつとして、「働きやすい安全・安心な職場環境づくり」があります。時間外労働の削減を意識づけ、メリハリのある働き方を促すために、間接スタッフ向けには毎週水曜日をリフレッシュデー（ノー残業デー）としているほか、直接作業者には週60時間を超えて勤務することがないように周知徹底を図っています。また、ムラタグループ全体で推進しているダイバーシティ&インクルージョンの推進も進めており、岡山村田では女性だけでなく障がい者の方が働きやすい職場とは何かを考え、施策に取り組んでいます。

労働安全衛生面では、ヒューマンエラーによる労働災害が多くを占めていたことから「決めたルールを守ることを徹底する」をスローガンに掲げ、災害ゼロを目標に、安全管理を徹底しています。その一環として、経験の少ない若手を中心に危険体感教育を実施するなど、全体での安全レベル向上に努めています。また、従業員の健康増進も重要な課題ととらえ、メンタルヘルスに重点を置いて、悩みを相談できるコミュニケーションルームを設けるなど、さまざまな施策を展開しています。

環境保全の取り組みにも力を入れています。ムラタグループの生産設備の中には、コンプレッサーで圧縮したエアを使用するものがありますが、岡山村田では圧縮エアの供給圧力を低減させる取り組みを実施し、省エネにつなげました。また、照明のLED化、ポンプやファンなどの省エネ化を進めることで、CO₂の排出抑制に寄与しています。その他にも、各工程の水使用量を削減するなど、日々環境保全の意識を持ちながら業務にあたっています。

岡山村田では、ムラタの理念のひとつ「そこにムラタがあることがその地域の喜びであり誇りであるように」に基づいて、CS（顧客満足）とES（従業員満足）に加え、LS（Local Satisfaction＝地域の満足）を掲げ、ピオトープなど事業所敷地の開放、環境や理科などの出前授業、地域の行事への参画など、さまざまな取り組みにより地域との絆を深めています。岡山村田は、25年間で築いてきた信頼をさらに高め、今後もますます社会や地域に開かれた存在でありたいと願っています。

事業所の従業員が
一丸となって
CSR活動を実践。



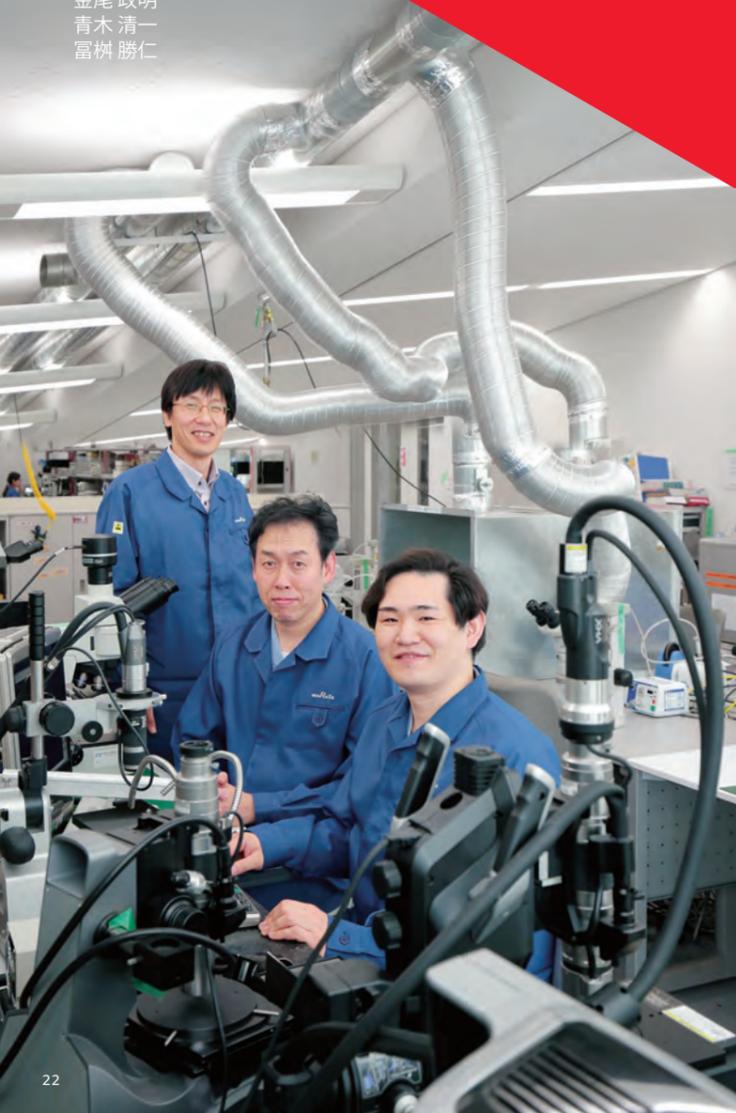
写真より
株式会社岡山村田製作所
管理部 環境課
岩崎 紘平
株式会社岡山村田製作所
管理部 事務課
神家 佑佳
那須 正利

[MetroCirc™]

「独自のモノづくり」は社是の精神。MetroCirc™はコンセプトも作る体制も、最先端。

MetroCirc™は、ムラタの積層・多層技術、設計技術と、新しくムラタグループに加わった伊勢村田製作所(旧:プライマテック社)の高機能樹脂材料とを組み合わせることで生まれた新しい樹脂多層基板。優れた高周波特性を持ち、薄型かつ自由な形状での回路設計が可能で、ウェアラブル機器やIoT機器など、新しい市場、新しい暮らしの創出に貢献することが期待されています。

写真左より
株式会社村田製作所
メトロサーク事業部
金尾 政明
青木 清一
富樹 勝仁



写真左より
株式会社村田製作所
メトロサーク事業部
池本 伸郎
古村 知大
株式会社富山村田製作所
第3製造部
白木 浩司

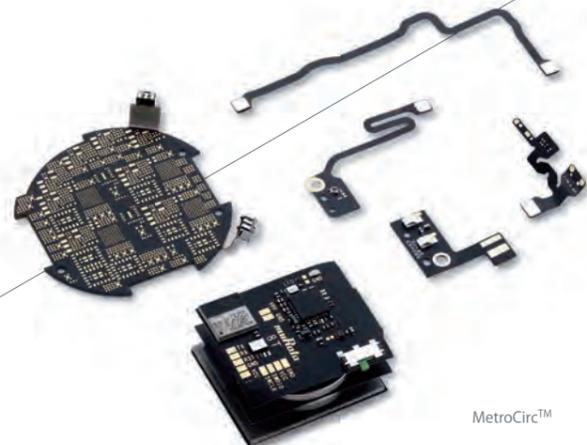
※マスク着用エリアですが、
撮影のため外しています。

Philosophy

ムラタはセラミック材料を中心に事業を展開していますが、有機材料・応用技術の獲得・事業化にも取り組んできました。これにより、基板と電子部品を組み合わせた新しい市場が開拓され、「エレクトロニクス業界でイノベーションを起こす」「競合企業の邪魔はしない」という創業者の想いをもとに、MetroCirc™は生まれました。

Origami-Concept

MetroCirc™は、世界最先端の設備、最新のセキュリティシステムなどを完備したスマートファクトリーで作られています。薄型で製品形状を自在に変えられることから、折り紙のような基板といわれています。



MetroCirc™

Diversity

ムラタは日本発で世界に事業展開しており、海外からの出向者など、多国籍、多種多彩な人材が活躍しています。また、材料からの一貫生産を実現するために2016年11月にプライマテック社(現:伊勢村田製作所)を買収し、新しい仲間が増えました。

ムラタはお客様に喜んでいただくのはもちろんのこと、MetroCirc™に関わるメンバーのやりがいも大事にしています。女性が自発的にプロモーションチームを結成し、きめ細やかな顧客サポートを行い、お客様にも大変喜ばれています。

社是を道標に異なる文化と融合し、世の中にないものを創り続け、新しい仲間を増やししながら、MetroCirc™はこれからも社会の発展に貢献してまいります。



伊勢村田製作所



写真左より
株式会社村田製作所
メトロサーク事業部
宮林 亜伊
松林 未紗
松井 利佳
松田 文絵



左写真/左より
株式会社村田製作所メトロサーク事業部
lijun zhao
chu xu
株式会社富山村田製作所 第3製造部
平松 晴佳
株式会社村田製作所メトロサーク事業部
yijian gu
Wuxi Murata Electronics Co., Ltd.
New Business Production Department
zhujun yang
株式会社村田製作所メトロサーク事業部
Byung No BAE
yanmeng zhang
meng xie



安全衛生、労災削減

安全衛生教育の体系化を推進、再構築しています

安全衛生教育とは、従業員が労災に遭わないように、仕事の中にどのような危険があるかを理解するため、また安全確保の行動をとるために、「教育」や「訓練」を行うことです。現在、各事業所の安全衛生担当者が連携して教育の再構築を行っています。

各事業所で行っている教育を集約して、全従業員が知っておくべきことと、それぞれの業務に必要なことに分類し教育体系の整備を行っています。そして、より効果的な教育になるように内容を見直し、教育内容の充実と労災リスクに応じた専門教育の強化を図っていきます。

また、「挟まれ」「巻き込まれ」「感電」などの労災を模擬的に体験する安全体感教育の導入も進めています。これにより従業員一人ひとりの安全への感受性アップを図りたいと考えています。



写真左より
株式会社村田製作所 八日市事業所 管理部 事務課 原田 隆之/佐々木 賢市
株式会社村田製作所 環境・安全部 環境安全推進課 前 昌孝

ムラタでは、労災発生防止のために、設備改善などハード的な取り組みと、安全衛生に関する教育や啓蒙活動などソフト的な取り組みをあわせて実施しています。ムラタの労災発生率※は、製造業平均に比べて低い値ですが、さらに低くなるように取り組みを継続していきます。

※100万延実労働時間あたりの労働災害による死傷者数



地球温暖化防止

組織力を発揮した省エネ活動で温暖化防止に貢献する

タイの北部、チェンマイにはASEANで2番目に設立されたMurata Electronics (Thailand), Ltd. (以下タイムラタ)があります。経済成長著しいタイではエネルギー消費量が年々増加していますが、国のエネルギー政策によって、10年間でのエネルギー効率40%近く改善しており、タイムラタでも同様に積極的な省エネ活動を行っています。LED照明などの高効率機器の導入や、空調機の効率を向上させるための運用改善に取り組み、組織横断的な省エネ推進体制で効率的に展開することによって削減できたCO₂の量は880t。これはタイムラタで排出しているCO₂の2.5%に相当します。今後もタイで事業を行う企業として社会的責任を積極的に果たすとともに、グローバルに活動拠点を持つムラタグループ全体に対して良い刺激を与えるよう継続して努力していきます。



写真左より
Murata Electronics (Thailand), Ltd. Production engineering Dept. Maintenance engineering Sec. Phisit Rataphai
Administration Dept. Environmental control Sec. Pongpat Sonpan, Thawatchai Jaimoon
Production Dept. Production engineering Sec. Wirat Jankan

ムラタでは、事業活動で排出される温室効果ガスの総量削減に向けて温暖化防止方針を掲げています。目標達成のため、温暖化防止委員会を中心にムラタグループ全体で活動を行っています。



省資源、廃棄物

災害時に備えて複数の廃棄物処理ルートを確認

ムラタでは、生産活動にともなって発生する廃棄物は、廃棄物処理業者に委託し、リサイクル処理を行っています。万が一、地震や洪水などの災害により処理施設に被害が出た場合、ムラタから廃棄物を排出することができなくなり、保管場所がなくなれば結果としてムラタの生産活動を止めなければなりません。

このリスクを回避するために、ムラタのすべての工場において他の処理ルートを複数確保し、生産活動に影響が出ないようにしています。このように、廃棄物処理は不要なものを処理するだけでなく、モノづくりを支える重要なパートを担っています。私たちは、業者の皆様としっかり連携しながら、その役割を果たしていきます。



写真左より
株式会社出雲村田製作所 管理部 環境課 糸原 進/平野 友博
株式会社岡山村田製作所 管理部 環境課 久保 毅幸

ムラタでは、廃棄物の発生量削減に取り組んでいます。より安定確実に廃棄物を処理するため、廃棄物管理体制の強化を目指します。



水の削減

「水リスク」を意識し、水資源の有効利用を徹底

水は我々が生活するうえで欠かせない資源ですが、工場の生産活動においても同様です。

しかし、気候変動や人口増加などの影響で水不足や水質汚染の問題が深刻化し、世界中で「水リスク」への関心が高まっています。

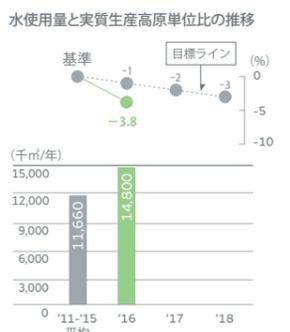
富山村田製作所では、水資源の有効利用を徹底するために、冷却水の系統を見直すことによって再利用率を上げて、水が持つ温度を最大限に有効活用する取り組みを行いました。この取り組みによって削減できる水の量は、年間60,000 tにも及び、工場全体の約3%に相当します。

富山村田製作所は、日本の中でも特に水環境に恵まれた場所に位置する工場ですが、だからこそ、水資源の保護を徹底した取り組みを今後も推進していきます。



写真左より
株式会社富山村田製作所 管理部 環境課 加藤 尚人/山田 聖史/久保 真

ムラタでは事業活動で使用する水資源の削減、有効利用を推進しております。ムラタグループ内で情報の共有を図りながら各事業所で活動を行っています。



[ダイバーシティ&インクルージョン]

社員一人ひとりが活躍できる、 ダイバーシティ&インクルージョンを企業風土に。

さまざまなバックグラウンドを持つ社員が働いているムラタでは、「多様性(ダイバーシティ)」をお互いに「受容(インクルージョン)」することで、イノベーションを生み出すことが重要ととらえ、ダイバーシティ&インクルージョン(以下、D&I)を推進する委員会「M-DIP (Murata Diversity Inclusion Plaza)」を設置しました。ムラタでは性別や人種など目に見える違いだけでダイバーシティを進めるのではなく、一人ひとりの思考、経験、アイデア、能力、働き方など目に見えない違いを受け入れ、それぞれの個性を大事にしなが、衝突を恐れず、意見を出し合いながら、イノベーションを起こしていきたいと考えています。意見は違っても同じ方向を向いている仲間とともに、自分では思いつかなかったアイデアを出し合い、企業成長につなげていくことがD&Iを進める理由です。

M-DIPメンバー15名の中から、それぞれ想いを持った3名がD&Iについて、経験をベースにしたから意見を交わしました。

海外勤務経験がある吉岡は「海外で働いていると未知のことが本当に多い。そういった環境にいると、相手のことをよく観察するようになる。ムラタはグローバルにビジネスをしているので、相手を知ろうとする姿勢が欠かせない」と異なる価値観や考え方を受け入れることの大切さを強調します。

女性技術者の北尾は「私が入社した時、部門に女性技術者が私一人で緊張や不安があったが、周囲の人たちに支えられた。一人ひとりが活躍で

きるように、信頼関係構築や自由闊達な議論を通じて、お互いの価値を認め高め合うことを大切にしたい」と意識変革を訴えます。

育児休暇から復帰し、時短勤務をしている古部は「育児と仕事の両立が不安になった時期があり、職場の人たちからの温かい声掛けに支えられ乗り越えることができた。この経験から、一人ひとりの存在を認め合うことの大切さを実感している」と、インクルージョンに対する感謝の気持ちを語ります。

M-DIP参加者は、経験を通じてD&Iの必要性を感じています。いろんな考え方があるとビジネスニーズを網羅でき迅速に対応できる、一人ひとりが持ち味を生かせればイノベーションはきっと起こせる、互いを認め合って生き生き仕事する人を増やしたい。議論の終わりに3名はM-DIPが今後社内に求めていくD&Iに期待を込めていました。

ムラタでは多様な人材の考え方・経験・能力を活かすことで、アイデアの衝突と新しい結合からイノベーションを起こし、さらなる社会・文化の発展への貢献を目指す成長戦略としてD&Iを位置づけ、今後も推進していきます。

一人ひとりが
特性を發揮し
生き生きと働ける
企業でありたい。

写真左より
株式会社村田製作所
営業本部日本営業統括部
吉岡 憲一
株式会社村田製作所
モジュール事業本部 IoT統括部
北尾 文美
株式会社村田製作所
生産本部品質保証統括部
古部 祐子

ムラタグループにおける
経営理念のワークショップを
開催した国の数

16^カ国

グローバルに
理念を浸透させ、
意識と行動を
ひとつに。

[海外拠点での理念共有]

ムラタの理念を実践し、 企業価値を高めていく。

2012年、フィンランドのMEMS専門メーカーであったVTI Technologies OyがMurata Electronics Oy(以下ムラタフィンランド)としてムラタグループに加わったことを受けて、私たちは、ムラタの経営理念(=社是)を共有するためのワークショップを継続的に実施しています。

このプログラムは、ムラタの経営理念を共有し、お客様満足度の向上とムラタの継続的な発展に向けて、従業員がどのように貢献できるかを考えるきっかけを作ります。全従業員参加型のワークショップでは、ムラタの経営理念や社是についてのグループワークが行われ、参加者から「私たちにはもっとできることがある。ムラタの経営理念を日々の業務に取り入れることがムラタの発展につながるのだと実感した」と前向きな意見が上がりました。

これらのワークショップはeラーニングでも共有でき、新しく入った従業員が、ムラタの経営理念をこのシステムで自習することも推進しています。そして、私たちはこれらのワークショップを通じて、ムラタの経営理念を「理解する」から「実践する」までに成長することができました。さらにワークショップの取り組みは、さまざまな成果をもたらしています。

— Case 1

モノづくりのスキルを強化する。

2016年、ムラタフィンランドのMEMS製造部の従業員グループは、日本の製造現場ではどのような社是の実践が行われているのかを学ぶために、金沢村田製作所(以下金沢村田)を訪れました。金沢村田では従業員が社是の精神のもと継続的に作業の

改善、改革に取り組んでおり、これがムラタの強みになっていると感じた参加者らは、当取り組みを、自社の製造工程の強化に活かしています。



Murata Electronics Oyのメンバーによる金沢村田製作所訪問の様子

— Case 2

品質向上のために、「科学的管理」を実践する。

「科学的管理の実践」は、品質向上のためにムラタフィンランドで実践してきた主要な取り組みのひとつです。ムラタの分析能力を活かし、経営理念に組み込まれた品質への考えをムラタフィンランドで展開することによって品質改善につなげることができました。私たちは、「Know your process(あなたの作業プロセスを知ろう)」や、「Cross-functional team work(機能横断型のチームワーク)」と呼ばれる活動の中で社是を実践することで、社内のノウハウを効果的に活用できるようになりました。

私たちは、ムラタグループの一員として、今後もムラタの経営理念を根付かせる活動を継続していきます。そして社是の実践を通してモノづくりに取り組むことにより、文化の発展に貢献してまいります。

[CSR調達推進について]

環境や人権など、CSRの課題に 仕入先様と一体となって改善に取り組めます。

ムラタは、CSR調達を推進することで、私たちと仕入先様が相互の信頼を築き、ともに繁栄していくことを目指しています。これは、社是の精神である『文化の発展に貢献』『協力者との共栄』『感謝する人々とともに運営』にほかなりません。

現在、多くの企業はさまざまなステークホルダーからCSRへの取り組みを要請されています。ムラタでも、自身がCSRに関する取り組みを推進するのはもちろんのこと、仕入先様にもCSRへの取り組みをお願いすることでサプライチェーンを通じてCSRを浸透させ、持続可能な社会の実現に寄与することを目指しています。また、最近では従来のグリーン調達による環境への配慮だけでなく、仕入先様における人権(差別的禁止など)や労働安全衛生への取り組み状況も配慮したCSR調達の実施と、仕入先様ご自身が積極的にCSR調達に取り組んでいただくことも要請しています。

仕入先様ご自身のCSR調達状況については、電子業界CSRアライアンス®(EICC®)行動規範に基づくCSR活動状況についての調査(アンケート)を実施することにより確認しています。今後は、調査(アンケート)の結果を受け、仕入先様のより詳細な実態について確認または監査するとともに、問題があれば、私たちと仕入先様とが一体となって改善に取り組み、CSR活動を推進していくことを検討しています。さらに、昨今ますます重要視されている紛争鉱物問題に対しても、CSR活動の一部として位置づけ、一体となって対応してまいります。

これらの活動を真摯にかつ着実に実践することで、社会への貢献はもとより、お客様に対してムラタ製品とともにこれまで以上の安全と安心をお届けしたいと考えています。

写真右より
株式会社村田製作所
生産本部 SCM統括部
中野 幸久
平田 絵里加
福井 裕介

[CSR調達に関する概念図]



持続可能な社会の
実現に向け、
仕入先の
皆様とともに

ムラタグループにおける
森林保全活動を
実施した事業所数

8事業所

モノづくり企業の
森づくり、人づくり。



写真左より
株式会社村田製作所
環境・安全部
坂田 繁寛
環境・安全部 環境安全推進課
中田 佳代

[ムラタの森林保全活動]

継続的な活動が評価され、 「ムラタの森、林野庁 長官賞」を受賞。

本社では2007年度より、森林保全活動「ムラタの森」を行っています。京都府亀岡市神前区の森林をフィールドに、月に1度のペースで地元の皆様のご支援をいただきながら、当社従業員とその家族のボランティアによって間伐作業を中心に活動を進めています。昨年の秋、約10年にわたる継続的な活動が高く評価され、京都府で開催さ

れた「第40回全国育樹祭」において、「林野庁 長官賞」を受賞しました。今後も積極的に活動に取り組み、この賞に恥じない存在であり続けたいと思えます。

*森林保全活動「ムラタの森」は、1992年の世界地球サミットでカナダが提唱した持続可能な地域環境づくりの実践活動「モデルフォレスト運動」の日本における実践第1号です。

[ムラタの出前授業]

中国の子どもたちとも一緒に 希望と好奇心を育みたい。

ムラタでは、モノづくり企業として、モノづくりを支える「技術者」の仕事や面白さを伝えるために2006年より国内外の小学校、中学校などを中心に出前授業を行っています。

理科・科学技術分野の知的好奇心を刺激するとともに、技術者の仕事のやりがいや、失敗してもあきらめないことの大切さを伝えました。

中国にある無錫村田電子有限公司では、2016年12月に近隣の小学校で出前授業を実施しました。

また、これからの学習の一助になることを願って図書の寄贈もあわせて行いました。ムラタは、子どもたちに夢や希望を与えることができる企業でありたいと願っています。

自転車型ロボット「ムラタセイサク君®」や一輪車型ロボット「ムラタセイコちゃん®」のバランスを保つ仕組みや、開発中の様子を紹介することで



CSR活動における目標と実績

ムラタでは、重点取り組みテーマを設定し、各種施策を推進して継続的な改善に取り組んでいます。

2016年度の環境および社会性目標に対する実績、および2016～2018年度中期目標と2017年度の目標

■ 環境目標 ○: 達成 △: ほぼ達成 ×: 未達成

項目	2016年度目標	2016年度実績	評価	2016～2018年度中期目標	2017年度目標
[1] 当社製品による環境貢献	CO ₂ 排出削減貢献量算定ルール(案)の策定、試算	CO ₂ 排出削減貢献量算定ルール(案)を策定し、検証に向けて製品の貢献量を試算した。	○	当社製品の使用段階におけるCO ₂ 排出削減貢献量の評価手法の確立	CO ₂ 排出削減貢献量算定ルール(案)の検証
[2] 地球温暖化対策	中期目標達成に向けた2016年度計画の設定、遂行	中期目標達成に向けたCO ₂ 排出削減計画を設定・遂行し、前年度CO ₂ 排出量の3.5%のCO ₂ を削減した。	○	2018年度の温室効果ガス総排出量を、120万ton-CO ₂ 以下に抑制	前年度CO ₂ 排出量の1%以上のCO ₂ 削減
[3] 省資源・資源循環— 廃棄物	2016年度の廃棄物排出量、実質生産高原単位で1%改善 [2011-2015年度平均比]	廃棄物排出量が実質生産高原単位で2011-2015年度平均比6.4%悪化した。廃棄物の有価物化などの施策を実施したが、事業拡大にともない原単位の高い品種の生産数量が急増した。	×	2016-2018年度の廃棄物排出量平均を、実質生産高原単位で3%改善 [2011-2015年度平均比]	2017年度の廃棄物排出量を実質生産高原単位で1%改善 [2011-2015年度平均比]
[4] 省資源・資源循環— 水	2016年度の水使用量、実質生産高原単位で1%改善 [2011-2015年度平均比] ・水リスク評価手法の調査 ・汚染リスクの低減に向けた雨水排出管理の強化	・水使用量が実質生産高原単位で2011-2015年度平均比3.8%改善した。 ・水リスク評価手法を調査し、グローバルスタンダードの2種類の手法を用いることとした。今後は評価結果を基に、各国・地域ごとの水リスクに合った取り組みを進める。 ・新規工場での雨水排出時に関する汚染リスクを把握し対策に着手。	○	・2016-2018年度の水使用量平均を、実質生産高原単位で3%改善 [2011-2015年度平均比] ・水リスクの評価手法の確立と低減に向けた施策の展開	・2017年度の水使用量を実質生産高原単位で1%改善 [2011-2015年度平均比] ・汚染リスクの低減に向けた雨水排出管理の強化

■ 社会性目標

○: 達成 △: ほぼ達成 ×: 未達成

項目	2016年度目標	2016年度実績	評価	2016～2018年度中期目標	2017年度目標
[1] 内部統制システム	継続して内部統制の整備を進めることで、法令、定款、社内規定等への適合において重大な問題の発生件数ゼロ件を達成する。	継続して内部統制整備を進め、法令、定款、社内規定等への適合において重大な問題の発生件数ゼロ件を達成した。	○	経営の透明性と監査の実効性を向上させることにより持続的成長を実現し、企業価値の拡大を目指す。	継続して内部統制の整備を進めることで、法令、定款、社内規定等への適合において重大な問題の発生件数ゼロ件を達成する。
[2] コンプライアンスの推進	グローバル化に対応して効率的な監査を実施し、新設拠点・M&A会社への内部統制の拡大を進める。	国内外の新規拠点・M&A会社のうち4拠点に対し、内部統制の整備支援およびフォローアップ監査を実施し、内部統制の拡大を進めた。	○	コンプライアンス意識の浸透 ・イントラネットによるコンプライアンスや各種法令に関する最新動向などの情報発信、理解度テストやアンケートを継続して実施し、従業員の意識向上を図っていく。	コンプライアンス意識の浸透 ・コンプライアンス推進活動に関する定期的な情報発信の継続(12回/年) ・コンプライアンス確認テスト・アンケートの実施
[3] リスクマネジメントの強化	グローバルレベルでのリスクの調査～対策の実施・評価を継続して実施する。当社が直面する重要なリスク項目を特定し、それらの対策が有効であるかどうか重点的に検証を行い、より強固な対策となるよう見直しを行う。	全社的なリスクの調査～対策の実施・評価を継続して行い、対策を強化すべき項目を明確にして、当年度および今後の対策を計画的に実施した。	○	全社レベルでのリスクマネジメントのPDCAが有効に機能することが定着し、リスクマネジメントの考え方が日常業務の一部として浸透している。	当社の事業継続を阻害するリスクに対し、全社レベルで未然防止策やリスクが具現化した場合に被る損失の軽減策を継続的に検討し、その対応策について訓練の実施などの取り組みを強化する。

■ 社会性目標

○: 達成 △: ほぼ達成 ×: 未達成

項目	2016年度目標	2016年度実績	評価	2016～2018年度中期目標	2017年度目標
[4] 社会・地域への責任と行動	子ども向けの理科教育・環境教育の内容を充実させ、科学や環境に対する興味を持つ機会を拡大させる。 ・森林保全活動や近隣地域のイベントへの参画を継続して実施し、従業員が主体的に社会地域貢献活動に参加できる企業風土を醸成する。	子ども向けの理科教育・環境教育については、国内において継続的に活動を行うとともに、海外拠点においても徐々に活動の件数が増加している。 ・森林保全活動や近隣地域のイベントへの参画についても、海外拠点での活動が拡大しており、グローバルレベルでの活動が定着してきた。	○	最新のCSR課題を反映した仕入先様のCSR遵守基準を再定義し、その遵守状況について管理・改善する取り組みを継続的に推進する。	仕入先様のCSR遵守状況を確認するためのチェックシートを作成した。また対象となる仕入先様のご協力のもと、その回答を入手した。
[5] 仕入先様への責任と行動	災害発生時に参照する部資材の生産場所データベースの拡大とタイムリーな更新を継続的に推進する。	生産場所データベースの更新・拡大を継続して推進した。また災害発生時に、対象となる仕入先様へ問い合わせを行うシステムを導入し運用を開始した。	○	災害発生時に参照する部資材の生産場所データベースの拡大とタイムリーな更新を継続的に推進するとともに、災害発生時の被害確認のシステム化などその有効活用にも取り組む。	災害発生時に参照する部資材の生産場所データベースの拡大とタイムリーな更新を継続的に推進するとともに、災害発生時の被害確認のシステム化などその有効活用にも取り組む。
[6] 従業員への責任と行動	1.ムラタにおけるダイバーシティ&インクルージョン推進の開始 ・啓蒙活動(トップメッセージの発信、社内講演会などの開催等)、ダイバーシティ&インクルージョン等のテーマを検討・推進する会議体の設置 2.積極的にキャリア形成や成長を可能にするための取り組み ・自律的なキャリアデザイン・働き方への意識改革の推進:管理職への啓蒙活動、キャリア研修の実施 3.女性活躍推進に向けた取り組み ・育児などにより就業継続が困難になった従業員のための復帰制度の導入・拡充 4.シニア層の活躍支援 ・キャリアマネジメント研修会の実施(13回)、キャリア面談の実施	1.ダイバーシティ&インクルージョンの推進 ・トップメッセージの発信などによる啓蒙活動の実施 ・社外講師による講演会の実施 ・2016年7月に公募メンバーによる会議体(M-DIP)を設置し、ムラタにおけるありたい姿の検討と部門浸透の開始 2.キャリア形成や成長に向けた取り組み ・一般社員層に向けたキャリア研修(11回)とキャリアセミナー(15回)の実施 ・管理職向けのキャリアセミナー(14回)の実施 ・海外配偶者同体休職制度の導入 3.女性活躍推進に向けた取り組み ・退職者の再雇用制度(Mid Career Return)の対象条件の拡充 ・育児の短時間勤務制度の運用緩和による早期復職による活躍の実現 4.シニア層の活躍支援 ・キャリアマネジメント研修会の開催 管理職層:5回、一般職層:8回	○	1.ムラタにおけるダイバーシティ&インクルージョン推進の開始 ・啓蒙活動(トップメッセージの発信、社内講演会などの開催等) ・ダイバーシティ&インクルージョンを推進するための会議体の継続と浸透活動の展開 2.積極的にキャリア形成や成長を可能にするための取り組み ・自律的なキャリアデザイン・働き方への意識改革の継続推進:管理職への啓蒙活動、早期からのキャリア自律に関する意識づけ、キャリア研修の継続実施 3.女性活躍推進に向けた取り組み ・育児休職中などにおける昇格選考受験機会見直しと考課運用の見直しの検討 4.シニア層の活躍支援 ・キャリアマネジメント研修会の実施(9回)、キャリア面談の実施	1.ムラタにおけるダイバーシティ&インクルージョン推進の開始 ・社外講師による講演会の実施 ・2016年7月に公募メンバーによる会議体(M-DIP)を設置し、ムラタにおけるありたい姿の検討と部門浸透の開始 2.キャリア形成や成長に向けた取り組み ・一般社員層に向けたキャリア研修(11回)とキャリアセミナー(15回)の実施 ・管理職向けのキャリアセミナー(14回)の実施 ・海外配偶者同体休職制度の導入 3.女性活躍推進に向けた取り組み ・退職者の再雇用制度(Mid Career Return)の対象条件の拡充 ・育児の短時間勤務制度の運用緩和による早期復職による活躍の実現 4.シニア層の活躍支援 ・キャリアマネジメント研修会の開催 管理職層:5回、一般職層:8回
[6] 従業員への責任と行動	1.「人権・労働に関するマネジメントシステム」の仕組みの構築 ・全従業員向け啓蒙教育を2016年度に実施。 2.ハラスメント防止のための啓蒙・教育の継続 ・セクハラ・パワハラ研修未受講従業員全員に対して、2016年度4回実施。 ・全従業員向けハラスメント防止のための啓蒙教育を2016年度上期に実施。 3.人権教育の継続 階層教育として年1回実施	「人権・労働に関するマネジメントシステム」の全社への展開と人権労働委員会の開催 ・ハラスメント研修の実施 ・階層別(新入社員)研修時に人権教育の実施 ・ハラスメント、人権・労働について、2016年度から年1回全社啓蒙教育を導入し、従業員の感度を上げる。	○	「人権・労働に関するマネジメントシステム」の定着 ・ハラスメント・労働人権に関する全従業員向けの研修会の開催 ・人権教育の継続実施(階層教育) ・派遣会社や請負会社などの協力業者に対する人権・労働監査の実施	「人権・労働に関するマネジメントシステム」の定着 ・ハラスメント・労働人権に関する全従業員向けの研修会の開催 ・人権教育の継続実施(階層教育) ・派遣会社や請負会社などの協力業者に対する人権・労働監査の実施
[6] 従業員への責任と行動	・仕事と家庭の両立支援制度(ワークライフバランス)の充実 従業員子ども参観日の開催 1回	・従業員子どもを対象にした子ども参観日「ムラタキッズ」お仕事調査隊を開催 ・介護従事者の短日勤務制度の導入	○	・従来の両立支援制度の調査・分析を行い、課題を認識したうえで有効活用が図られる制度の見直しを検討する。 ・従業員および職場の両立支援に対する意識の醸成をより一層図る。 ・継続して、次代を担う子どもたちの健全な育成を支援する。	・仕事と家庭の両立支援制度(ワークライフバランス)の充実 ・従業員子ども参観日の開催 1回 ・課題の認識と効果的な施策の継続検討
[6] 従業員への責任と行動	・経営理念の浸透・共有策の推進 ・理念共有ワークショップの実施 20回 ・外国人採用の継続 新卒入社者:5名 ・外国人採用者受け入れ推進 2016年度 30人 ・グローバル化教育の実施(英語力、中国語力強化) 英語強化研修、中国語強化研修 各1セット実施	1.経営理念の浸透・共有策の推進 ・M&A後の経営理念共有ワークショップの実施 ・過卒入社者への理念講話の実施 ・創業記念日をきっかけに理念について考える会の実施 2.理念共有ワークショップの実施 30回 3.外国人採用者受け入れ推進 2016年度実績 31人 4.グローバル化教育の実施(英語力、中国語力強化) 英語強化研修 5月～11月にレベル別に1セットずつ実施(計3セット) ・中国語強化研修 5月～8月に1セット実施	○	・2017年度従業員サーベイにおいて、「理念共有」に関連する項目の数値が2015年度よりも改善していること。 ・国内階層研修プログラムへの理念教育の組み込み ・外国人採用の継続 新卒入社者:5名 ・外国人採用者受け入れ推進 2017年度 50人 ・グローバル化教育の実施(英語力、中国語力強化) 英語強化研修、中国語強化研修 各1セット実施	・経営理念の浸透・共有策の継続推進 ・各拠点を中心とする理念共有ワークショップの推進 ・国内階層研修プログラムへの理念教育の組み込み ・外国人採用の継続 新卒入社者:5名 ・外国人採用者受け入れ推進 2017年度 50人 ・グローバル化教育の実施(英語力、中国語力強化) 英語強化研修、中国語強化研修 各1セット実施
[6] 従業員への責任と行動	・重大な労働災害の発生件数0件 ・不安全行動が確認できるパトロール方法を導入する。 ・体感教育を導入を推進する。	・重大な労働災害は発生しなかった。 ・不安全行動を確認するために、積極的に作業者と会話を行う対話型安全パトロールを導入した。 ・安全体感教育を導入した。	○	・重大な労働災害の発生件数0件	・重大な労働災害の発生件数0件

ムラタのCSRに寄せて

ムラタのCSRでは事業活動を通じた社会的責任の遂行が強調されています。事業活動を通じた雇用の維持や社会的課題の解決などへの強い決意を読み取ることができます。ただし、現在の報告書では、抽象的な説明が多くなっています。国際的には、国連で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)のように具体的な問題への解決が求められています。ムラタの事業活動を通じた社会的責任の履行が、このような具体的な社会的課題の解決にどのように結びつくのかを示し、それをCSR活動の中心に据えられれば、ムラタの世界をリードしようという姿勢がより明確になると思われます。

ダイバーシティ&インクルージョンも本報告書のトピックの一つです。ダイバーシティ化の促進は、すべての社会階層で必要な活動ですので、是非、積極的に展開されて、大きな成果を収めていただきたいと思えます。そのためには、具体的なアクションプランが必要になると思えます。性別、年齢、国籍だけが多様化の対象ではありません。働き方そのものも多様化して、企業の体力を強化するとともに、従業員の人生をより充実させるような施策の展開を希望します。そのためには、いくつかの具体的な目標となる指標の設定も検討されることが大切と考えます。

サプライチェーンを対象として取り組みを実行されていることも評価できます。CSRも環境もサプライチェーン全体で対応しなければうまく管理できないことが、ここ数年ではっきりしてきました。パイヤーからのプレッシャーも年々大きくなると思えます。ムラタは素材に近いサプライヤーとの関係が主になると思えますので、アッセンブリーメーカーでは十分対応できない、きめの細かいサプライチェーンでの社会的価値の追求を期待しています。

CSRの世界では統合報告書(Integrated Report)への転換が進んでいます。統合報告書の特徴は、財務資本だけでなく、製造資本、知的資本、人間資本、社会・関係資本、自然資本が生み出す価値も含めた「統合」的な報告書です。ムラタのCSRの精神にフィットした報告スタイルであると思えます。今後は、統合報告書の発行へ向けた準備を期待しています。その時にポイントになるのは、社会に向けた価値創造の指標です。財務的なKPI(Key Performance Indicator)だけでなく、非財務KPIを同時に設定し、目標管理して、状況を開示していくことが、これからは重要になると思えます。



神戸大学大学院
経営学研究科 教授
國部 克彦氏

国内外主要拠点一覧

[国内拠点一覧]

村田製作所 / 本社・支社・事業所・営業所	
本 社	株式会社村田製作所
支 社	東京支社
事業所	横浜事業所 / 野洲事業所 / 八日市事業所 / 長岡事業所
営業所	仙台 / 水戸 / さいたま / 東京 / 立川 / 浜松 / 名古屋 / 安曇野 / 京都 / 神戸 / 岡山 / 福岡

[海外拠点一覧]

North & South America 南北アメリカ	
U.S.A.	Murata Electronics North America, Inc. Murata Power Solutions, Inc. Peregrine Semiconductor Corp.
Canada	Murata Power Solutions (Toronto) ULC
Mexico	Murata Electronics Trading Mexico, S.A. de C.V.
Brazil	Murata World Comercial Ltda. 他

Europe ヨーロッパ	
Netherlands	Murata Electronics Europe B.V.
Germany	Murata Elektronik GmbH
U.K.	Murata Power Solutions (Milton Keynes) Limited Murata Power Solutions (Celab) Limited
France	Murata Electronique SAS Murata Integrated Passive Solutions S.A.
Finland	Murata Electronics Oy 他

上記以外にイギリス、イタリア、スペイン、ハンガリー、スイスにセールスオフィスを設置しています。

国内関係会社	
株式会社福井村田製作所	株式会社大垣村田製作所
株式会社出雲村田製作所	株式会社アスワ村田製作所
株式会社富山村田製作所	株式会社穴水村田製作所
株式会社小松村田製作所	東京電波株式会社
株式会社金沢村田製作所	東光株式会社
株式会社岡山村田製作所	株式会社伊勢村田製作所
株式会社金津村田製作所	株式会社村田指月FCソリューションズ
株式会社鯖江村田製作所	村田土地建物株式会社
株式会社イワミ村田製作所	株式会社ムラタ栄興
株式会社ハクイ村田製作所	株式会社ムラタアクティブパートナー
株式会社水見村田製作所	株式会社ムラタエレクトロニクス
株式会社アズミ村田製作所	ムラタソフトウェア株式会社
株式会社小諸村田製作所	ムラタ分析パートナー株式会社 他
株式会社ワクラ村田製作所	
株式会社登米村田製作所	

Asia アジア	
China	村田(中国)投資有限公司 (Murata (China) Investment Co., Ltd.) 無錫村田電子有限公司 (Wuxi Murata Electronics Co., Ltd.) 深圳村田科技有限公司 (Shenzhen Murata Technology Co., Ltd.) 村田電子貿易(天津)有限公司 (Murata Electronics Trading (Tianjin) Co., Ltd.) 村田電子貿易(上海)有限公司 (Murata Electronics Trading (Shanghai) Co., Ltd.) 村田電子貿易(深圳)有限公司 (Murata Electronics Trading (Shenzhen) Co., Ltd.) 賽芯電子技術(上海)有限公司 (SyChip Electronic Technology (Shanghai) Ltd.) 村田電源技術(上海)有限公司 (Murata Power Solutions (Shanghai) Co., Ltd.) 佛山村田五鈹精密材料有限公司 (Foshan Murata Minmetals Materials Co., Ltd.) 東莞村田電子有限公司 (Dongguan Murata Electronics Co., Ltd.)
Hong Kong	村田有限公司 (Murata Company Limited) Murata Power Solutions (Hong Kong) Limited
Taiwan	台湾村田股份有限公司 (Taiwan Murata Electronics Co., Ltd.)
Korea	韓国村田電子株式会社 (Korea Murata Electronics Company, Limited)
Singapore	Murata Electronics Singapore (Pte.) Ltd.
Thailand	Murata Electronics (Thailand) , Ltd. Thai Murata Electronics Trading, Ltd.
Malaysia	Murata Electronics (Malaysia) Sdn. Bhd.
Philippines	Murata Electronics Philippines Inc. Philippine Manufacturing Co. of Murata, Inc.
India	Murata Electronics (India) Private Limited
Vietnam	Murata Electronics (Vietnam) Co., Ltd. 他



役員一覧 平成29年7月1日現在

取締役	取締役会長兼社長	村田 恒夫*
	取締役副会長	藤田 能孝
	取締役	井上 亨*
		中島 規巨*
		岩坪 浩
		竹村 善人
		石野 聡
	重松 崇 (社外取締役)	
	取締役 監査等委員	田中 純一
		吉原 寛章 (社外取締役)
豊田 正和 (社外取締役)		
上野 宏 (社外取締役)		

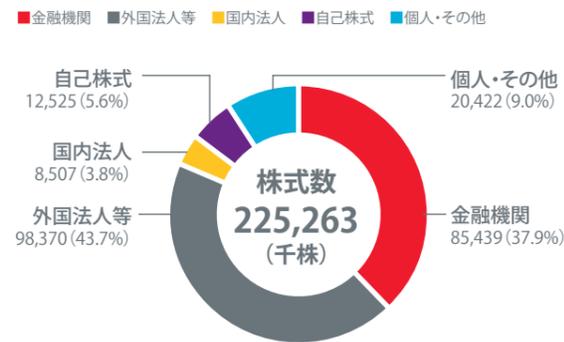
*は代表取締役を示します。

執行役員	専務執行役員	井上 亨 中島 規巨
	常務執行役員	藺田 聡 岩坪 浩 竹村 善人 石野 聡 酒井 範夫
執行役員	上席執行役員	石谷 昌弘 水野 健一 丸山 英毅 宮本 隆二
	執行役員	鴻池 健弘 多田 裕 鱈谷 佳和 岩井 清 佐々木 俊和 早川 悦生 大森 長門 利根川 謙 野村 慎治 坂井 孝治 久保寺 紀之

株式の状況 平成29年3月31日現在

株式事項	当期末発行済株式総数	225,263千株
	当期末株主数	56,576名

所有者別分布状況(千株)



株式上場 〔国内〕 東京証券取引所 市場第一部
〔海外〕 シンガポール証券取引所

大株主の状況 平成29年3月31日現在

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
JP MORGAN CHASE BANK 380055	18,541	8.7
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	11,389	5.4
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	7,699	3.6
日本生命保険相互会社	7,361	3.5
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	6,977	3.3
株式会社京都銀行	5,260	2.5
明治安田生命保険相互会社	5,240	2.5
JPMC OPPENHEIMER JASDEC LENDING ACCOUNT	4,836	2.3
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	3,854	1.8
株式会社滋賀銀行	3,551	1.7

(注)持株比率は、発行済株式の総数から自己株式(12,525千株)を除いて計算しております。

セラロック、エミフィル、イオニシモ、ムラタセイサク君、ムラタセイコちゃんは、株式会社村田製作所の登録商標または商標です。

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS



このパンフレットは
環境に配慮し、植物
油インキを使用して
います。



www.murata.com

Printed in Japan '17/6/38K
Japanese version